

①0歳児の姿

0歳児は全員が新入園児、初めての保育園であることが多いので、親子ともに不安を感じていますが、愛着関係がしっかり築けると、子どもの表情がやわらぎ、なんとも安らいた顔つきになってきます。素直に甘えたり、自分の思ったまま感じたままを思い切り出してくるようになります。担当保育士にしか見せない表情、笑顔や甘え、後追い、日々の成長……。担当ならではの特権（まるで母親のような！）がたくさんあるのが0歳児です。

②大切にしたいかかわり・配慮

担当保育士が1対1で愛情をたっぷり注ぎながら継続的にかかわり、愛着関係をしっかり築いていきます。全面受容を心がけ、担当制のもと、

特定の保育士が日々かかわる中で、子ども自身も保育士のことを信頼し安心して甘えたり、感情豊かに表現するようになり、人とかかわる喜びや楽しさを味わえるようになってきます。

私たちは、愛着関係を築くために何よりも、肌と肌の触れ合い（スキンシップ）を大切にしています。おんぶや抱っこで肌と肌をくっつけ、快・不快を表現している時にすぐに応えてあげることで愛着関係の土台を築いていきます。保育士が表情豊かに接することも心がけています。

0歳児の保育では、子どもの発育発達の道筋を理解し、一人一人の発達をしっかりつかむことが不可欠です。そのうえで、その月齢に必要な経験が抜けないう、担当者を中心に成長への仲立ちをしていきます。発育に心配な子がいる場合は、その子の発育の既往歴を把握し、そのことについて保護者がどう考えているのかを知り、支えていくという気持ちでかかわりましょう。

先輩保育士からのアドバイス

初めて0歳児を担当する先生へ

0歳児担当に決まったら、まず、月齢ごとの発達の道筋を確認します。また、心身機能の未熟さともなう疾病の発生も多いので、一人一人の発育や健康状態を把握し、保健的な対応をしていける専門知識も必要です。このことは、「生命の保持」の観点からも重要です。これは保護者との連携がなければ成り立ちません。

保育の基本は「1対1」です。甘えと受容を十分に保障して、ゆったりと応答的にかかわる保育を心がけましょう。

Point 0歳児で見逃してはならない発達の道筋

【身体発達】

寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩き、一人立ちの段階を踏んでいるか

【精神発達】

- 保育士と目が合わない
- 笑わない
- 喃語が出ない
- 人見知りをしない
- (口に入れた食べ物を) 噛もうとしない
- (おもちゃなどを) 握ろうとしない

*上記のことが見られた場合は経過観察しながら対応する。個人差があるので早さにはとられない。

Point 0歳児の発達をめやす

1. 快適な環境の中で保育士との深いかかわりにより、愛着の絆が形成され、情緒が安定し、落ち着いた園生活ができる。
2. 保育士と遊ぶ楽しさを味わい、一人一人に応じた欲求に満たされ、よく遊び、よく食べ、よく眠って安定したリズムで過ごす。
3. 授乳、離乳食、幼児食の段階を踏んで、食べ物をよく噛み飲み込みことを獲得し、食事を楽しむ。
4. 寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩き、一人立ちの段階を踏んで歩行を獲得する。
5. 発声、喃語、発語を促し、保育士の話しかけを喜んだり、自分から片言で話し始める。
6. 探索行動を十分経験して身のまわりのさまざまな物に興味や関心をもつ。

Point 0歳児へのかかわりと配慮

1. 特定の保育士に守られ、かわいがられて信頼関係を築くので、子ども一人一人の欲求を受容し、心地よく過ごせるような養護を行う。
2. 一人一人の発達をしっかりつかみ、大切な経験が抜けないようにし、成長への仲立ちをする。
3. 保育室や園庭は危険な物を排除し、また、清潔に心がけ、安心して生活ができるように環境設定をする。
4. 1日の生活の流れと一人一人の生活リズムを把握し、それぞれに合わせた生活の世話をし、安定した園生活を送れるようにする。



0歳児の養護とかかわり

生命の保持

1日24時間を視野に入れ、安定した生活リズムを作る

情緒の安定

応答的なふれあいにより愛着の絆を形成する

Point 0歳児にとっての保育園生活は、家庭と同様に、安心でき安全なものでなければなりません。なかでも「養護」は0歳児保育のほぼすべてであり、「生命の保持」は、まだ確立していない命の糸を強いものにしていくために特に保育士が心を配るべき分野だといえます。保育園で過ごす時間だけでなく、家庭と連携をとり、1日24時間を視野に入れた生活リズムを作りましょう。

Point 人間は生まれた瞬間から生きようとしません。その生きようとする気持ちは、まわりのおとなとの応答的なやりとりがあってこそ、強化されていくものです。「子どもは伝えたいことがあると泣き、保育士はそれにすぐに応える」という繰り返しこそが、子どもの「生きよう」とする気持ちを後押しします。

子どもからのメッセージが、どんな形であれ敏感に受け止められ、それに正しく応答できること。これが最も中心的な保育士の専門性ではないでしょうか。目の前の子どもに、肌からあなたのやさしさを伝えていきましょう。それが愛着形成の第一歩であり、情緒の安定につながります。

2か月～3か月児 の発達をめやすとかかわり

保育園の中で最も低い月齢の子どもたちです。首も座るか座らないかの赤ちゃんです。

一人一人の生活リズムを大切に、担当保育士がそばについてゆったりかかわります。高月齢児とは分けて保育するよう、保育士間で連携をはかります。

運動・身体発達

- 手や足を自由に動かす
- 玩具を手で眺める
- 固視、追視
- 音に対して反応
- 腹ばいになると頭を持ち上げようとする
- 首が座る

* 4か月頃になっても視線が合わないようなら要注意。視力障がい、自閉症、精神遅滞の可能性も視野に入れつつ経過観察する。



▲2か月 たくさん声をかけたり、音の出る玩具などでいっぱいあやしてあげましょう。

▲3か月 首が座る頃、腹ばいにして遊びます。床には安全・衛生のためにプレイマットを敷きます。

IDEA 2か月児はこんな音が大好き

- ビニール袋のカシャカシャ
- 口の音（口を鳴らす、唇を震わせる）



◎在籍する可能性のあるクラス

(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2歳児クラス												
1歳児クラス												
0歳児クラス												

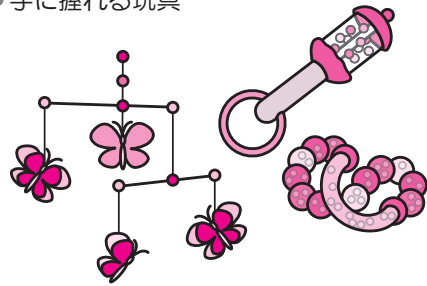
Point 自分の手をじっとみつめる「ハンドリガード」の時期です。自分の体を意識しはじめ、目の前の物が見えるようになってくるので、手をかざしてじっと見つめたりします。

◎かかわりのポイント

- 寝かしっぱなしにせず、たくさんあやす。
- 無理のない程度に腹ばいにさせる。子どもの状態に合わせて時間を決めて行う。
- つるし玩具を見せたり、握りやすい玩具を用意する。

Point 2～3か月児のおすすめおもちゃ

- モビールやオルゴールメリー
- 手に握れる玩具



* 保育士が振りながら話かけたり、あやしたりして遊びます。

人間関係（情緒・社会性）

- 抱っこされて安心する
- あやすと笑う
- 人が離れると泣く
- 声をかけられると泣き止む
- 表情が豊かになり、声（喃語）が出る
- そばにいる人をじっと見たり、目で追う
- 快・不快がはっきりする（口を鳴らす、唇を震わせる）



◎抱っこの方法

①首が座るまでは横抱きします（心音が聞こえると安心します）。



②首が座る頃からたてに抱きます（見えるものが増えて、視界が広がります）。



言葉

- あやすと声（アー、ウー）を出す
 - あやすと笑ったり顔を見つめる
 - 相手の発声をまねて声を出して遊ぶ
- * 喃語の出ない子どもは注意が必要。



Point 原始反射も薄らぎ、生理的的微笑から社会的微笑へと変化していきます。自分の意思で笑いますから、どんどんあやして笑わせてあげてください。たくさんあやされて笑う経験がコミュニケーションの始まりです。今後の発達にとっても大切です。

子どものようすからその子の気持ちを察知することは保育士のもつべき専門性といえるでしょう。一人一人の特性を把握して、生活リズムや毎日の健康状態を知り、本人の訴えに敏感に的確に答えられるように努めましょう。

◎かかわりのポイント

- 寝かせっぱなしにせず、たくさん話しかけ、あやす。顔を見て抱っこする。
- 抱っこ、授乳、オムツ交換など、かかわるときにはゆったりとした気持ちで接し、子どもとのつながり、心の結びつきをもつことに努める。
- 泣いたら、どうして泣いているのか心配してかかわる。無視は絶対NG！
- 機嫌よく周囲を見回したり、声を出したり、手足を動かしたりして遊んでいる時は静かに見守る（一人遊びを見守る時間とあやしかかわる時間とのバランスが大切）。

Point あやせばあやすだけ、喜んで声を出します。楽しくやりとりしていきましょう。だんだん喃語も出てきます。やさしく話かけたり歌ったりしながら、喃語を促しましょう。

◎かかわりのポイント

- 保育士は、子どもの声に応えながら発声を促す。
- 目と目を合わせ、表情や口の動きがはっきり見えるように語りかける。
- 子どもの名前を呼んだり、子どもの声に応えるよう声をかける。
- 保育士はゆったりとした気持ちと明るい笑顔で心がけ、声の大きさに気をつける。



4か月～6か月児 の発達のめやすとかかわり

6か月までは基本的に室内で過ごします。わらべ歌などを歌いながら1対1で触れ合う時間をもつようにしましょう。0歳児クラスへの入室は感染症予防のため、原則、送迎の保護者と保育士のみとし、異年齢児との交流もできるだけ控えます。

●在籍する可能性のあるクラス

(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2歳児クラス												
1歳児クラス												
0歳児クラス												

運動・身体発達

- 首がすわる
- 胸をそらす
- 寝返りをする
- おもちゃに手を伸ばしてつかむ



*6か月を過ぎても、首がすわらない場合は、医療機関を受診するよう保護者に勧める。

IDEA

保育室におススメ！ モバイル・オルゴールメリー

首が座ると視界が広がり、まわりの物に興味をもつようになるので、ゆれるモバイルやオルゴールメリーを飾りましょう。



Point

寝返りが始まる時期です。寝返りを促す働きかけをします。寝返りが始まると、ベッドから転落する可能性があります。必ず柵をし、ロックを確認しましょう。午前寝などの時も睡眠チェックを5分おきに行います。

●かかわりのポイント

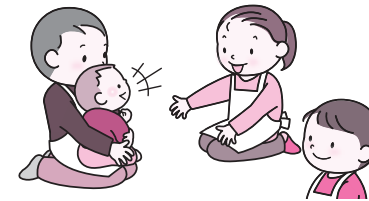
- 寝返りしやすいように、足を交差させて介助したり、背中を支えながら体を回転させる。
- 枕の上に胸を置き、首を動かしやすい状態にする。



- おもちゃは故障や危険な物がないか十分に点検し、清潔にする。

人間関係（情緒・社会性）

- 母親（父親）と他の人が見分けられるようになり、母親（父親）が顔を見せるとうれしそうに笑う
- 親しい人があやすと笑う
- 知らない人をじっと見る
- あやされて声を出すだけでなく、自分のほうからも声を出して注意を引き、遊んでもらおうとする
- 喜びや不快、好き嫌い、怒りなどがはっきりする



言葉

- 喃語が活発になる
 - 相手の発声をまねて声を出して遊ぶ
- *喃語の出ない子どもは注意が必要。

Point

母親（父親）とそうでない人、特別にかかわってくれる人とそうでない人との区別ができ、愛着が築かれ始めます。安心できる人が世話をするとよいでしょう。やさしい声、厳しい声の区別もわかるようになります。その時々状態に応じ、声と表情で気持ちを伝えていきます。

●かかわりのポイント

- 話しかける時は、目を見て、笑顔で、抑揚をつけながらゆっくりと話しかける。
- ほほえんだり泣いたりした時にはすぐ応答できるようにする。
- あまり笑ったり泣いたりしない子は特に気をつけ、かかわりを増やす。
- 機械音を長時間使用することはできるだけ避け、人の声の心地よさを十分味わわせる。
- 要求を受け止め、満足するように遊ぶ。

Point

喃語が増えてくる時期です。子どもの声に返すように、たくさん話しかけてあげましょう。

●かかわりのポイント

- 子どもの声に応じて話かけると、子どもはまねて、喜んで声を出すようになる。
- 自分に気づいてほしいときも、「アー、アー」と話しかけてくるので、そのつど、保育士も返事をする。

Point 1対1の触れ合いで 安定した関係作り

新しい環境にスムーズに慣れるために、特定の保育士と子どもの信頼関係を築くことが大切です。朝の受け入れ、遊び、授乳、食事、午睡と1日を通してできるだけ担当保育士がかかわります。何よりも1対1でゆったりとかかわり、やさしい語りかけやスキンシップで、安心して過ごせるようにしましょう。



ギュッと抱きしめてあげると安定し、気持ちが受け止めてもらえると感じ落ち着きます。



クラス全員で過ごすのではなく1対1の触れ合い遊びで信頼感が増します。

Point 室内遊びも工夫を

ねんねのころも寝かしっぱなしにせず、声をかけたり、「いないいないばあ」をして遊んだりします。時にはベッドからラックに移動したり、モバイル等を見えるところ（手の届くところはNG）につけてあげたりしましょう。常に1対1のかかわりが大切です。スキンシップをはかりながら、触れ合いを楽しみます。



7か月～10か月の 発達のためやすとかかわり

なるべく1対1でゆったりとかかわれるようにしましょう。保育士と一緒に身近な物に触れて遊んだり、発達に合わせて体を使った遊びを楽しみます。

◎在籍する可能性のあるクラス

(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2歳児クラス												
1歳児クラス												
0歳児クラス												

運動・身体発達



- 歯が生え始める
- お座りができる
- ハイハイする
- おとなと一緒に指さしをする

*9か月を過ぎても、お座りできない場合は要注意。

Check! 異物の飲み込みに注意!

ハイハイで室内を自由に動き回り始めるこの時期。異物の飲み込みには特に注意します。ボタン、壊れた玩具、ぬいぐるみの目、虫、画びょう、ホチキスの針、劣化したセロハンテープetc.。異物が落ちていないか、職員全員で気をつけます。くずかごの中身も要注意です。異物を見つけたら、黙ってかたづけるのではなく、その状態をクラスで共有し事故防止につなげましょう。

Point 絵本の読み合い

保育士のひざの上に子どもをのせ、1対1で、ゆったりとした雰囲気の中で絵本を読み聞かせる時間は、子どもと保育士の愛着を深め、心や言葉の発達を豊かにします。この頃の絵本は「読み聞かせる」というより「読み合い」。目の前の子どもと気持ちを合わせ、やりとりを楽しむために絵本を使い、笑ったり、歌ったり、コミュニケーションを楽しみましょう。



Point 一人でお座りができるようになります。しかし、まだ不安定な時期なので、けっして目を離しません。ハイハイも始まります。この時期にたくさんハイハイすることで、転倒したときに手が出る子に育ちます。自由にのびのび動けるように環境を整えましょう。

◎かかわりのポイント

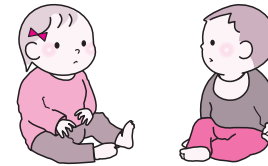
- 腹ばいの姿勢になった時には、足の踏ん張りを支えたり、前方におもちゃを置いたり、移動させたりしてハイハイを促す。
- マットを用意し、スロープをつくり、ハイハイの練習をさせる（広さと道具のある保育園ならでは！家庭ではできません）。
- 自由にのびのび動けるように月齢に合った遊びを工夫し、月齢に合った玩具も用意する。



人間関係（情緒・社会性）

◎7～8か月

- 人見知りが強くなる
- 意思表示がはっきりしてくる
- 自分の要求に応じてくれる時は喜び、応えてくれない時は不安や怒りをあらわす
- 他児と顔を見合わせたり、じっと見たりする
- 名前を呼ばれるとニコリ笑う



◎9～10か月

- 保育士との物のやりとりを喜び始める
- 声を出してまわりの注意を引こうとする
- 一人でよく遊ぶ
- 友だちを意識し始める（近づいたりする）
- いろいろなものに興味をもつ
- 人まねをする



言葉

- 子音を含めた喃語が盛んになる
- 意味をもった「パバ、ママ、マンマ」等を使う
- 手遊びや音楽が聞こえると体をゆらしたり、手をたいたたりして遊ぶ
- 身振り（ちょうだい・バイバイ等）、発声、喃語などで自分の要求を表現する
- おとなの言う簡単な言葉がわかる



Point 人見知りが強くなります。抱いたり声をかけたりして応え、私たちが信頼できるおとなであること伝えてあげましょう。子どもが不安な時、機嫌のいい時、相手になってほしい時、一人で遊んでいたい時など、子どもが常に安定した精神状態で満足できるよう、その時々気持ちを受け止めることが何より大切です。

◎かかわりのポイント

- 人見知りには、できるだけ同じ保育士がかかわるようにし、泣き出した時はしっかりと抱きしめ、不安や恐れを取り除くようにする。
- 一人で手を口に入れたり、声を出して機嫌よく遊んでいる時は無理にかかわらず、見守る。
- 保育士に要求を示したり、注意を引いたりする時は、それに応え満足するように遊ぶ。
- 保育士はいつもそばにいて見守り、困ったときには助けてくれるという安心感をもたせるようにかかわる。
- 子どもは、すべてにおいておとなをまねて学ぶ。正しい話し方・生活態度を心がる。
- 10か月くらいになると、友だちを意識し始める。保育士が仲立ちになって、子どもの名前を呼んだり、おもちゃのやりとりをしながら、自分以外の子どもの存在を知らせ、つながりをもたせるようにする。

Point 「マー」「パー」のように子音の入った喃語が盛んになり、やがて、意味をもった単語を話し始めます。言葉の始まりです。

◎かかわりのポイント

- 保育士は、あやしたり、やさしく語りかけるなどして、表情豊かに応答し、言葉の発達を援助していく。
- 一語一句、子どもは耳を傾けているので、正しい言葉で語りかける。保育士間の会話にも気をつける。
- 子どもの発声や喃語にやさしく応え、子どもの発語への意欲を育てる。

11か月～1歳未満児 の発達をめやすとかかわり

歌に合わせて体をゆらしたり、わらべ歌を楽しみます。同じことを何度も繰り返して楽しみます。つかまり立ちや伝い歩きを繰り返します。

●在籍する可能性のあるクラス

(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2歳児クラス												
1歳児クラス												
0歳児クラス												

運動・身体発達

- ハイハイを楽しむ
- つかまり立ち、伝い歩きをする
- つかんだ物を口へ運ぶ



先輩保育士からのアドバイス

歩行器はお勧めしません

歩行器は歩行が始まったとき、足の裏がきちんと床につかず、つま先歩きになることの原因の一つになりかねません。

Point ハイハイでたくさん遊ばせます。そのうち、つかまり立ちや伝い歩きも始まります。一人歩きの第一歩です。体を十分使えるような遊びを楽しめるようにしましょう。

●かかわりのポイント

- ハイハイで階段を上がれるようになる。自分で上がろうとする気持ちを大切に見守りながらも、バランスを崩したり、手をつき損ねたりする危険があるので、すぐに補助できる位置に保育士がついて上がらせる。
- つかまり立ちの始めは、一人一人に十分注意しながら見守る。特に、足先だけで足底全体がついていないつかまり立ちには要注意。
- 広い場所を用意し、危険のないよう見守る。
- 指先を使った遊びを取り入れる（マジックテープ・シールはがし、つまようじさし）。



Point 親子触れ合いとわらべ歌遊び

肌と肌を触れ合わせながら、ゆったりとした雰囲気の中で遊ぶことにより、親子の愛着が深まり、情緒が安定するものです。

最近の保護者の傾向として、子どもとの遊び方がわからない方が多くなっています。参観日や行事などを活用し、触れ合い遊びを紹介して、一緒に触れ合いながら遊ぶ楽しさを保護者にも知ってもらおうようにしましょう。

●触れ合い遊びとわらべ歌の例

- 一本橋
- でこやまでこちゃん
- えんやら桃の木
- ちぎりぱっちり
- いちりにり
- ラララそうきん
- おすわりやす
- ちょちちょあわわ

人間関係（情緒・社会性）

- 指さしをしたり、ひっぱったりして、他の子どもにも興味を示す
- 禁止の言葉がわかる
- ほめられたことは喜んで繰り返す
- おとなの簡単な言葉がわかる



Point やりとり遊びができるようになるので「ちょうだい」「どうぞ」などのおもちゃを使ったやりとり遊びを楽しめるようになります。また、保育士と一緒に遊ぶ中で、ほかの子どもとのつながりをどんどん作ってあげましょう。

●かかわりのポイント

- 他の子どもに興味を示すようになるので、たたいたり、噛んだり、おもちゃを投げたりすることもある。そういう時には「ごめんなさい」「痛いね」など相手の痛みを知らせるような言葉かけをする。

言葉

- 身振り（ちょうだい・バイバイ等）、発声、喃語などで自分の要求を表現する
- 絵本を見ながら名前を言うと、数個の物がわかる



Point この頃になると言葉でのやりとりがだんだん楽しくなってきます。子どもが何を要求しているのかを理解し、言葉を交えて、たくさん受け答えしてあげてください。また、音楽が聞こえたりリズムカルに歌ったり、体を動かしたりするので、子どもがやっていることをほめながら、繰り返し楽しみましょう。

●かかわりのポイント

- はっきりとわかりやすい言葉で話しかける。
- 身ぶりや物と言葉とが、子どもの中でつながるような応答をする。
- 「〇〇をしてはいけません」「〇〇はやめなさい」「あぶない」「ダメ」などの禁止する言葉がどうしても多くなるので気をつける。

IDEA

体を使える遊び

●手押し車を押して遊ぶ

広いスペース、低月齢の子どもがいない安全な場所を確保します。バランスを崩して転んだり、他の子とぶつかったりしないように見守ります。



●玩具を出し入れして遊ぶ

つまみやすい素材（ハンカチやチェーン）を使ったミルク缶のおもちゃを作ったり、十分な数を用意し、じっくりと遊べる環境を整えます。

